

めだかだより



草笛学園 2026年 6月号



梅雨の季節になりました

少しずつ雨の日が増え、梅雨の訪れを感じられる季節となりました。これから見られる紫陽花やかえる、カタツムリなど、季節ならではの自然に子どもたちと一緒に触れながら楽しんでいくといいですね。気温差もありますので、体調に気をつけてお過ごしください。

☆心のなかに対ができるまで

幼児期の世界への飛躍のときである1歳半ごろの発達の質的転換期は、心のなかに対ができていくときです。ふたつの器を用意し、「どちらにも同じに入れてね」と積み木を与え、配分を促します。1歳3ヶ月くらいまでだと、どちらか一方の器に全部入れようとするでしょう。1歳半に近づいてくると、どちらにも入れようとするようになります。このような配分は、1歳半を過ぎたころ、ひとつひとつの積み木を左右の器に交互に入れるようなきめ細かな配分に発展しますが、2歳になるころには、どちらか一方にひとつ入れ、他方に全部入れるような「重みづけ」のある配分に変化していきます。

1歳半ごろのきめ細かな配分の姿は、心のなかで、「こちらではない、こちらだ」という操作を繰り返しているのです。まるで心のなかの対をいったりきたりするように、配分をしていくのです。7ヶ月ごろの発達の質的転換を達成していくときには、目の前の対を見比べつつ、選ぶ力を獲得していきました。1歳半ごろの発達質的転換期においても、まるで、そのときのようすを再現するように、ふたつの器を見比べつつ、配分をしていくのです。しかし、1歳半ごろの見比べと選択は、7ヶ月ごろのそれとは、質的に異なった特徴をもっています。目の前の対ではなく、心のなかに対ができ、心のなかで選ぶということです。この力を獲得して、選ぶ力にも新しい特徴が現れます。散歩の道の分岐点においても、自分の行きたい方向を選び、要求します。道の向こうにあるものは、見ることはできませんが、イメージしつつ、選ぶことができるのです。あるいは、目の前のごはんではなく、棚の上の目に見えないお菓子を選び要求するようになるのです。

対が心のなかにつくられていくまでのプロセスで、子どもは不思議なほどに熱心に入れ替えあそびを楽しみます。一方の器の水や砂を、他方の器に入れ替え、そして、またもとの器に入れ替えるのです。このような入れ替えを通じて、心のなかで、だんだん対が入っていくのでしょうか。それは、7ヶ月ごろの発達の質的転換を達成していくまでのプロセスで、対の見比べがきめ細かくなっていくのと似ています。一見、入れ替えを感覚的に楽しんでいるとしか思えない活動にも、発達にとってのたいせつな意味があるのでしょうか。

参考文献 『発達の扉 上』 白石 正久 著

※個別相談も行っています。職員とゆっくり話がしたい、子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

🌸 7月のめだか教室は…『みずあそび』をします

めだか教室① 7月14日(火)

めだか教室② 7月28日(火)

◎持ってくるもの 水着(もしくは濡れてもいい服)・タオル・着替え・水筒・サンダル

※保護者の方も濡れてもいい服装でお願いします♪

※園舎の工事の都合で当面の間、受付時間を9:50~に変更します。よろしく申し上げます。

『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- 参加費は無料です。(おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため) 製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- 水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください。
- トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください

